

## IV-33

## 仙台城址御裏林の堀切・切通と御清水について

東北工業大学 正会員○花 潤 健 一 東北工業大学 正会員 菊 地 清 文  
 東北工業大学 正会員 松 山 正 将 東北工業大学 正会員 佐 伯 吉 勝

## 1：はじめに

仙台城とは大きく本丸と二の丸を総称したものであり、本丸は初代仙台藩主伊達政宗が1600（慶長5）年から1610（慶長15）年にかけて青葉山山頂付近に築いたものである。二の丸は二代藩主伊達忠宗が、1615（元和元）年の大阪夏の陣以後の泰平の世に対応させた居館として青葉山山麓に1638（寛永15）年から1639（寛永16）年までに築いたものである。これら仙台城の最大の特徴として、自然地形を巧みに利用した防備性と御裏林を水源とする水利用システムをあげることができる。著者等は、これら仙台城の特徴を保全する基礎資料作成のため1990年より現況把握調査を継続している。

本報告は、これまでの調査で得られた知見の中から、やや防備性の弱点となっていた西方御裏林に設けられた堀切・切通の現況と、本丸の水源として重要であった深沢の御清水の湧水量について述べる。

## 2：観測対象地域及び測定

観測対象地域は、図-1に示す仙台城址地形図深沢流域部分（○印は御清水箇所）の図郭寸法記入部分から、堀切の設けられている西方尾根沿いに東北大学キャンパス方向へ3図郭分の地域である。

堀切・切通については、地形測量による地形把握と文献との比較を行なった。

御清水については、湧水箇所の位置確定の地形測量と集水装置をつくり、全湧水量を測定した。

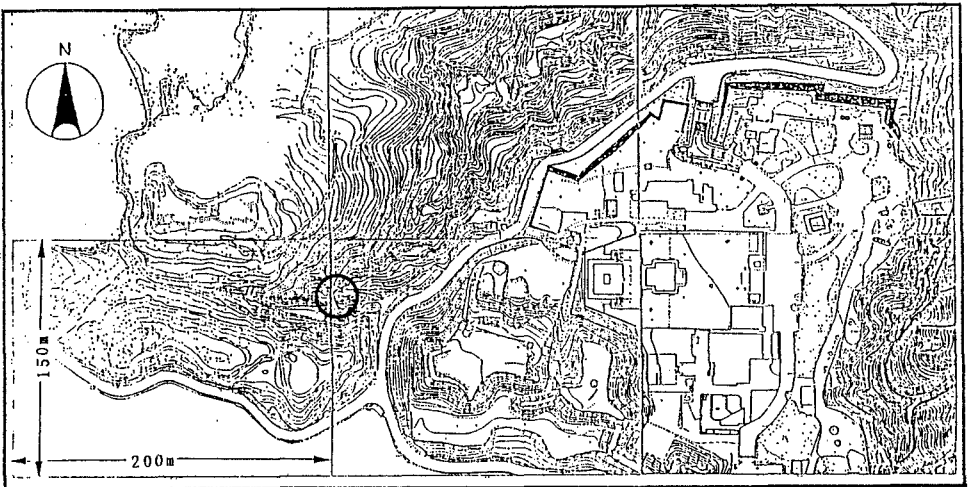


図-1 「仙台城址地形図：本丸跡・御裏林（深沢流域部分）縮尺1/250を縮小

## 3：測定結果

図-2に示すように、堀切・切通の位置する尾根部の地形図が完成したことによつて堀切の位置を確定することができ、これまで定説となっている3本の堀切数に対して、「第4の堀切」の存在について問題提起できたことは意義あるものと思われる。また、本丸水源の重要な湧水である御清水について、湧水箇所を確定し、全湧水量を測定できたことは、中嶋池復元に向けて有用な資料を得たものと考えている。御裏林には、最大の流域面積を有する本沢と、いまは埋め立てられて跡形もない裏池へ注いでいた裏沢、そしてその中間部分に、第二師団当時の火薬庫跡へ注ぐ最上沢（仮称）が残されている。藩政時代の水利用システムの検討には、これら各沢についても同様な調査と観測の継続が必要と思われる。図-3は、御清水の湧水量、pH、水温の測定値について、1998年のデータを示したものである。

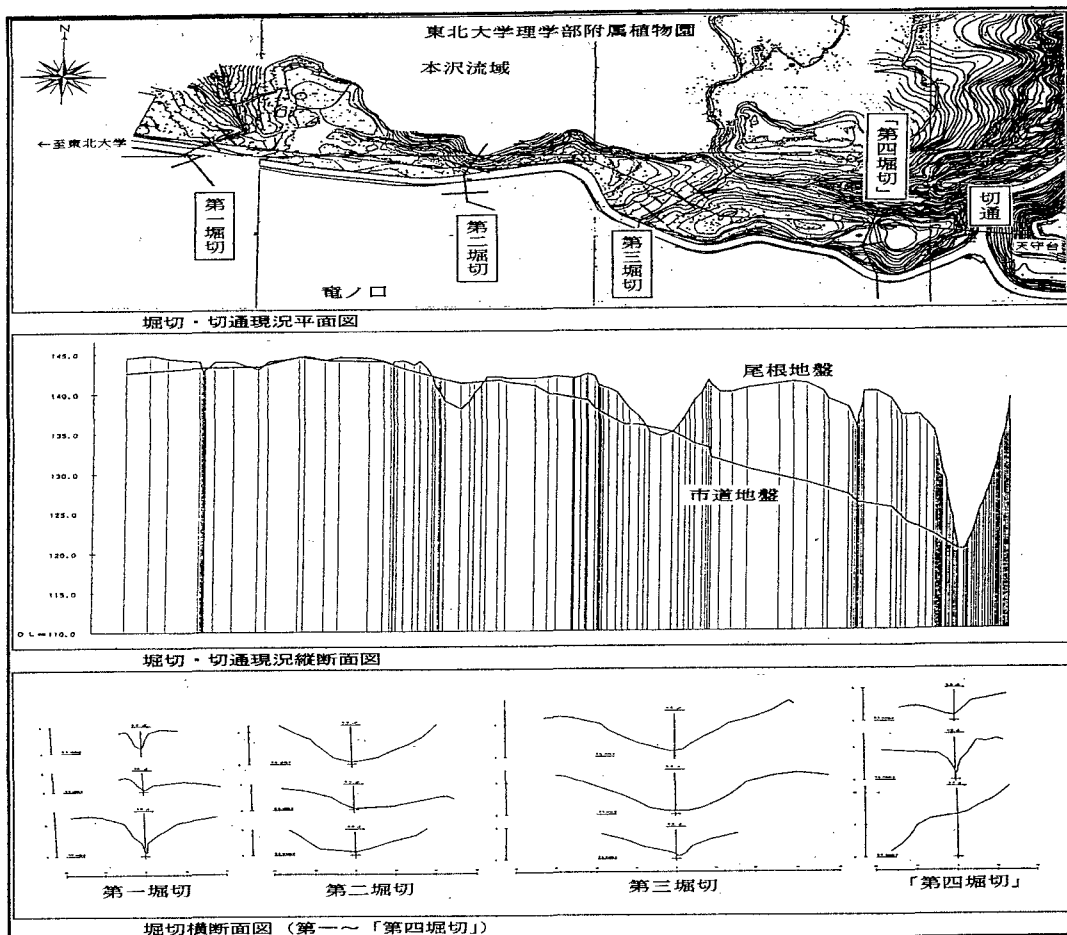


図-2 堀切・切通 (上段：平面図・中段：縦断面図・下段：横断面図) 位置図 縮1/250 変倍縮小

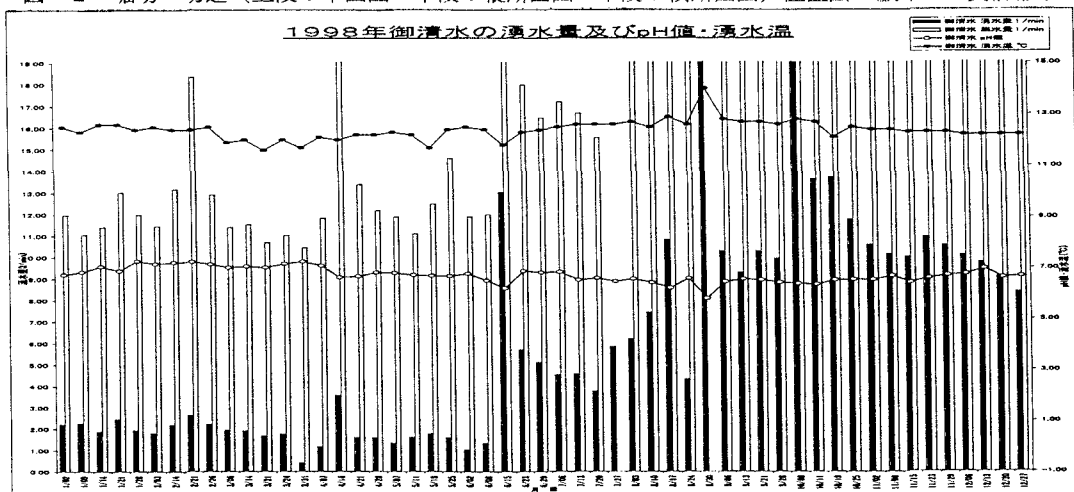


図-3 深沢御清水湧水の定点湧水量・集水湧水量・pH・水温 (1998年観測値)

4：おわりに

この調査・測定は、卒研生相原君、市田君、菊池君の協力を得て行なわれた、謝意を表する。